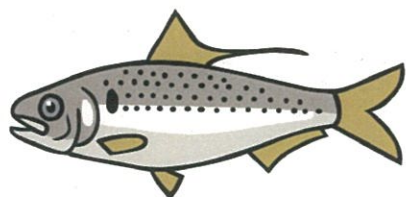


# コノシロ（東京湾）



- ・ 漁獲のほとんどが東京湾で、中・小型まき網などで漁獲される。
- ・ 産卵期は 4～7 月で、産卵場は当初は東京湾口部に形成され、次第に湾奥へ広がる。

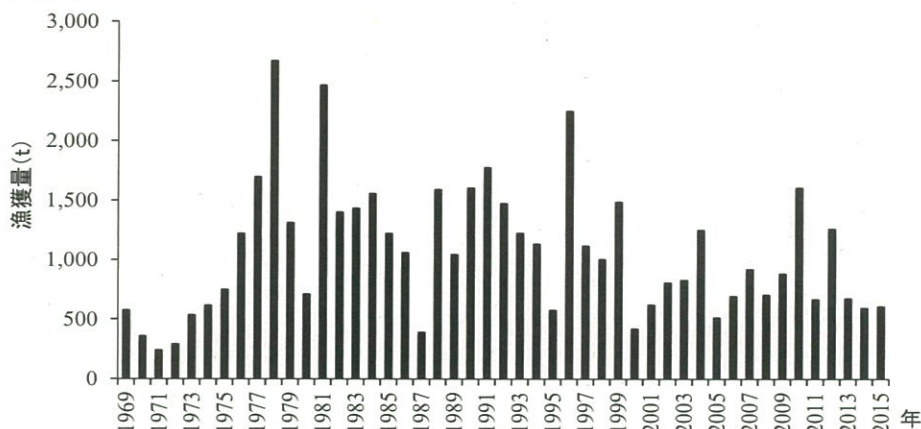
## 資源評価

## 漁獲量

水準：高位



動向：横ばい



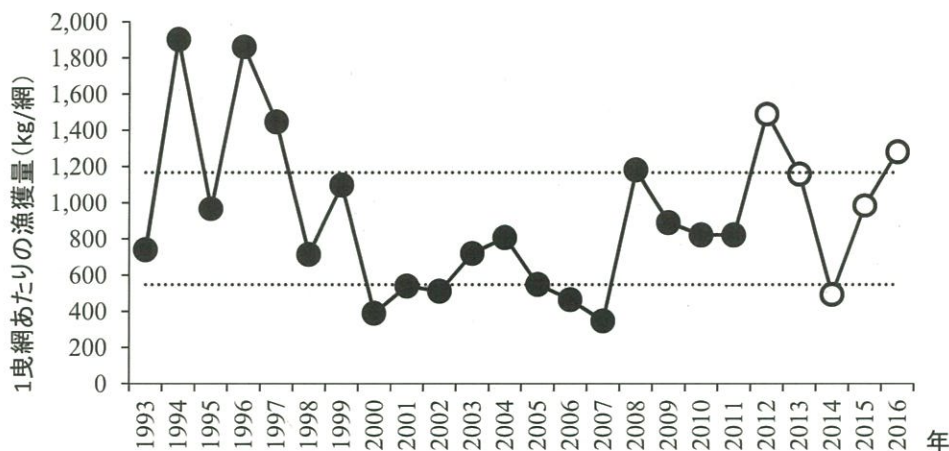
東京湾におけるコノシロの漁獲量の経年変化（千葉農林水産統計年報）

- ・ 東京湾におけるコノシロの漁獲量は、1978 年に 2,674t を記録したが、1980 年には 710t に減少した。その後も年による変動が大きく、近年は 600～1,600t で推移している。

注）資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から 4 分位により評価した。  
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、東京湾で操業する中型まき網漁船の操業日誌から集計した 1993 年以降の 1 曳網あたりの漁獲量 (CPUE) で判断した。
- ・ CPUE も漁獲量と同様に変動が激しいが、2016 年の資源水準は高位、最近 5 年間の資源動向は横ばいである。



東京湾における中型まき網標本船による 1 曳網あたり漁獲量の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 東京湾内において、底びき網では休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、中・小型まき網では冬期に休漁期間を設けるなど、コノシロ以外の魚種も含めて漁業者による自主的な資源管理が行われている。